

長畝ふるさと通信

【2013年9月号】

■ これまでに経験したことのない稲刈り

9月6日からスタートした25年産米の稲刈りは当初、困難を極めました。7月から8月にかけてこれまでに無い長雨で田んぼが乾かず、コンバインが埋まってしまい、手刈り作業が連日続きました。普段の年なら早生の「こしいぶき」は10日もあれば刈り終わるはずが、今年は15日もかかってしまいました。



毎日泥だらけになっての手刈り作業は誰しも疲労困憊、おまけに25年産米のJA仮渡金(JAが農家からお米を買い上げる価格)が昨年より60kgあたり1,800円も下がったのですから精神的にもダメージを受けました。日本中が異常気象に困惑した今年の夏。これからもずっとこんな異常現象が続くのでしょうか…

■ 9月後半は「晴れ晴れ」お天気で稲刈りも順調！



めげてばかりもいられません。9月も20日を過ぎていよいよ「コシヒカリ」の刈り取りとなると、連日の秋晴れ。台風18号が過ぎ去ってからはこれまでとは打って変わって順調に稲刈りが進みます。10月の中旬までにはすべての刈り取りが終わる見込みです。

■ 昭和53年からず〜と働いてくれています

長畝ライスセンターは昭和53年に設備され、かれこれ30年以上長畝の稲作を支え続けてくれました。外壁に書かれた「農協マーク」が歴史を物語っています。ライスセンターとは刈り取られた稲(モミ)を乾燥・調整(玄米にすること)し、出荷のために袋詰めするまでの作業を行うところです。



施設内は計量機や乾燥機、粳すり機や玄米色線機などが設備され、それらをベルトコンベアーや昇降機で繋いでおり、おまけに風塵ダクトや送風機なども複雑に絡み合っています。一番高いところはビルの3階くらいの高さで、(左の写真が一番高いところから写した写真) 細い階段の上り下りは高所恐怖症のボクには結構しんどいところです。

1日に稲刈りで運搬されるモミの量は平均30トン程度。多い日は50トンも搬入される日もあります。モミは乾燥機で一晩じっくりと乾燥され、水分15%以下に仕上げます。



乾燥されたモミは粳すり機でモミガラが外され「玄米」となり玄米色選機で未熟米や斑点米などがはじき飛ばされていきます。今年は玄米色彩選別機をさらに1台増設し、作業効率を上げました。今では1日に30kgの玄米を600~700袋作ることが出来ます。



玄米色選機1号機 → 斑点米や青未熟米など細かな識別が出来る優れものです

玄米色選機2号機 → 今期新たに設備、1号機の補助的役割を果たします

■ トキ9回目の野生放鳥

9月27日、トキの9回目の野生放鳥が行われました。今回放鳥されたのは17羽で、これまでに124羽ものトキが佐渡の野に放たれ、現在約80羽のトキが島内に生息しています。



稲刈りを終えた田んぼです。1ページ目のぬかるんだ田んぼと比べてみるとコンバインの足跡一つ残っていません。本来なら稲刈りの時期には田んぼは乾いてあの大きなコンバインが入っても沈むことはないのです。この広さの田んぼならコンバイン1台で1時間もあれば刈り終えるところです。ところが前出の田んぼは面積は3分の1もありませんが、コンバイン2台に手刈り人足4人も投入して2時間もかかっています。それでも取れたお米の値段は一緒ですから・・・

■ 25年産新米お待たせしました！

新米は10月10日に発送させていただきます。同封の年間予約数をご確認下さい(変更、間違い等がございましたらご連絡願います)。25年産米もお腹いっぱい召し上がって下さい。おかわりは自由です。

右の看板は佐渡のB級グルメ「ブリカツ丼」です。佐渡沖の天然ぶりをフライにして甘辛いたれに漬け、トキ米のご飯にのせたどんぶりです。一度ご賞味あれ。

